

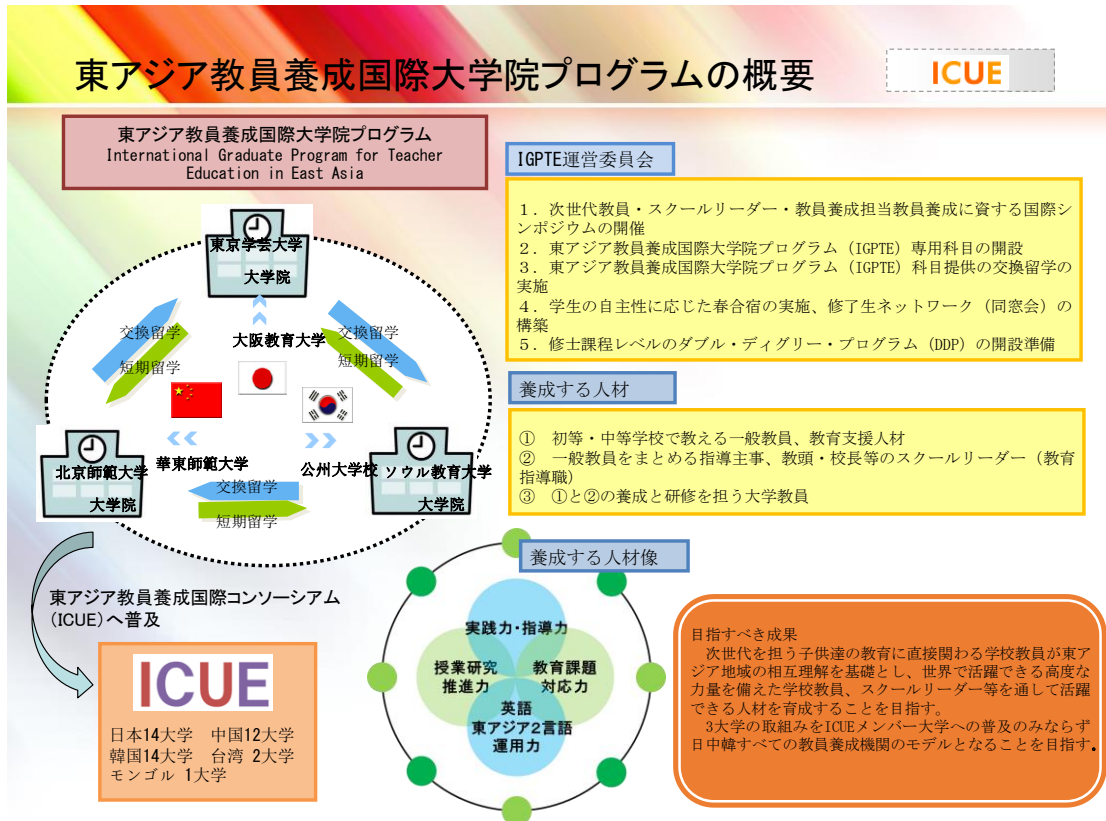
大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京学芸大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia)

東アジア教員養成国際大学院プログラム

【事業の概要】

「東アジア教員養成国際大学院プログラム」(略称IGPTE)は、日中韓の教員養成大学の拠点である東京学芸大学・北京師範大学・ソウル教育大学校が共同して、教員養成大学ならではの各種プログラムを構築し、教員養成における「キャンパス・アジア」を目指すものである。今回3大学は東アジア教員養成国際コンソーシアム(略称ICUE、加盟43校)の実績をふまえ、キャンパス・アジア事業を通じて、格段の国際化、交流の活性化を実現する。



【交流プログラムの概要】

下記4つの人材像の伸長を目的とする短期プログラムの実施、ICUEシンポジウム等学会における大学院生の研究発表、大学院生の専門性に応じた指導教員の選定、高度な研究指導の実施、半年・1年の長期留学、キャンパス・アジア・ネットワークと同窓会組織の構築、そして修士レベルのダブル・ディグリー等を通じて、世界で活躍できる高度な力量を備えた学校教員、スクールリーダー、教育研究者の養成に向けた質の高い教育を提供する。

【本事業で養成する人材像】

IGPTEの人材像は①高度な知識教養に裏打ちされた実践力指導力、②東アジアの学校教育において生起する複雑かつ多様な諸課題への対応力、③日中韓が世界に誇る授業研究力、④東アジアから世界で活躍できる人材に必須の英語力・東アジア2言語を身に付けることである。

【本事業の特徴】

教員養成分野で唯一採択された「国家プロジェクト」としての意識の高さは、3大学に共通するものである。各国の「お国柄」をふまえて、グローバル化対応に関する教員養成に固有の問題状況を整理し、本事業に取り組む。

【交流予定人数】 <タイプA-②>

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C3 K3	C8 K8	C9 K9	C9 K9	C9 K9
中国(C)での受入	J3 K0	J8 K0	J9 K6	J14 K6	J14 K6
韓国(K)での受入	J3 C0	J8 C0	J9 C6	J14 C6	J14 C6

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-②) CAMPUS Asia))

東アジア教員養成国際大学院プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ

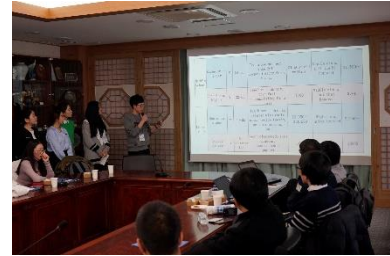
○ 日本人学生の派遣

韓国側において、CAMPUS Asia - Winter Program for Trilateral Cooperation 2016.2.5～2.18(WPTC)が企画され、東京学芸大学2名と北京師範大学15名の大学院生がソウル教育大学校を2週間訪問し、研修プログラムに参加した。北京師範大学において報告会も開催された。

学芸大から北京師範大学には1年間の予定で3名の学生を派遣した。



〈WPTCの場面、ソウル教育大学校〉



○ 外国人留学生の受入

東京学芸大学では、当初の年度計画を超える9名の中国側ICUE加盟校(うち北京師範大学3名)の学生、2名の韓国側ICUE加盟校等から学生を受け入れた。プログラム参加受入れ学生には、キャンパスアジアの人材像を育てる留学生科目を各学期1科目提供した。また春季に学生の自主性に基づく春合宿を開催した。

<タイプA-②>

	H28
日本(J)での受入	C9 K5
中国(C)での受入	J3 K0
韓国(K)での受入	J2 C15

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

北京師範大学、ソウル教育大学校と、教育組織、教育課程、単位算定、成績評価の方法及び学位授与方針等に関し協議を行うとともに、国内外の他大学の先行事例調査を行い、DDプログラム実施に向けた検討を行った。

本学における学習成果に対する単位付与については、派遣学生・受入学生に対するもの、短期・長期のものなど、複数の層に分けて考えていく。

このうち、長期受入れ学生については、留学生センター提供の留学生科目だけでなく、学部・大学院の正規科目も学生の日本語能力に応じ受講を認めている。こうした正規科目の質は教員養成カリキュラム改革推進本部と教務委員会が認める科目ということで保証されている。

単位を付与しない短期プログラム等は、プロセス評価、形成的評価、パフォーマンスに基づく評価(ルーブリック・ポートフォリオを含む)、アウトカム評価等を組み合わせ、プログラムの質保証と質向上に向けた取組に活かす。



〈受入れ学生の春合宿 日光にて〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のために、キャンパス・アジア事業に専従する専任教員(コーディネーター)1名と常勤職員1名を平成29年度から配置するための準備を進めた。また大学院・学部の教育課程と国際関連活動の双方をつなぐ戦略的な取り組みとして、全学組織としてキャンパス・アジア推進室を位置づけ学生支援を行い、ダブルディグリー等大学院の国際共同教育に対応するキャンパス・アジア事業推進委員会を立ち上げる準備を行ったところである。



〈受入れ学生の授業場面 小石川植物園にて〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

東京学芸大学はキャンパスアジアを通じて、国際化を大きく前進させる計画である。長年の懸案であった受入れ学生の対応を充実させるべく、コーディネーターを配置し、きめ細やかな学生指導を実現することとした。また人材像に掲げる高い語学運用力を可能とする、留学準備をかねた言語ラボもまもなく開設する予定である。

SNSを活用した学生ネットワークの構築等も進めるとともに、専用ウェブサイトを早期に立ち上げ、情報公開と成果の普及に役立てる。

■ グッドプラクティス等

東京学芸大学ではキャンパスアジアの受入れ学生に対し、留学生科目「日本の教育と文化」や「東アジア教師論演習」といった科目を通じて、人材像育成と学生間の交流に貢献している。また派遣学生の開拓のために、平成29年度から学部正規科目に「学芸フロンティアB」(留学のすすめ)を開設し、留学の意義や計画の立て方等を学ぶ機会を提供する。